平成22年度食育実践活動推進事業の事業概要

訴求対象

幼児

●日本小児栄養消化器肝臓学会
幼児期の健全な食生活は、将来の食習慣にも影響を与え、生涯を通じた健康、特に生活習慣病予防という点からも重要である。このため、小児科医、栄養士、教諭が協力してモデル幼稚園で食育を実践し、その成果により手引書を作成する。（幼稚園での授業、公開講座、食育手引書の作成等）

小学生

●日本米穀小売商業組合連合会
お米マイスターが地域の小学校に出向き、児童に対し朝ごはんの有用性、日本型食生活の大切さ、食事バランスガイドの活用法並びに主食であるお米についての体験を通した授業を行い、同時に受講児童を通じてその保護者に対する普及啓発も行い実践を促す。（小学校での授業、壁新聞コンテスト、保護者を対象とした検定等）

若者

●野菜等健康食生活協議会
「食事バランスガイド」と「野菜摂取目標量：１日５皿分（350g）」についての重要性の認知ならびに正しい理解の促進、実践度の向上を図ることを目的とし、学校関係者、企業の健康管理部門、小売・中食・外食・飲食施設等と連携して、「食育実践活動」を行う。（小学校での授業、企業が実施する食育プログラムへの支援等）

●果物普及啓発協議会
バランスのとれた食生活を実践するきっかけとして、教育関係者、量販店等と連携して、低位にある果物摂取の改善を図り、さらには「日本型食生活」の実践を推進する。（小学生を対象にした出前授業、作文・壁新聞コンクール、学生等を対象にしたセミナー、量販店等の店頭を活用した欠食改善のための簡単朝食提案活動等）

中高年

●株式会社　アグライア
首都圏（東京、埼玉、神奈川）は、首都を有する大都市であるとともに、都市近郊農業の盛んな地域でもあり、地域構造や生活構造は多岐に渡っている。多様なニーズに対応した食育活動を展開するため、様々な企業・団体と連携し、「食事バランスガイド」に基づく日本型食生活に加え、「環境」や「運動」の視点を盛り込んだ運動を展開する。

●株式会社　ブランド総合研究所
小学生から一般主婦層をターゲットに、「お弁当」づくりを通じて健全な食生活について考え、実践する活動を展開する。（「バランス弁当」コンテストの開催、Webサイトを通じた情報提供等）

高齢者

●おとどけシステム食育推進協議会
ニーズが高まりつつある高齢者世帯等への宅配サービス及び事業所給食（社員食堂、老人ホーム等）の利用者を対象に、食事宅配事業者、事業所給食事業者と協力して、主に高齢者及び中高年層の食生活の改善に取り組む。（宅配メニュー、サービス内容の検証、学習会の開催等）